

Honda Motor Sports Guide 2020

Honda Racing



THE FINISH LINE IS NEVER THE END

HONDA

DAKAR RALLY 2020

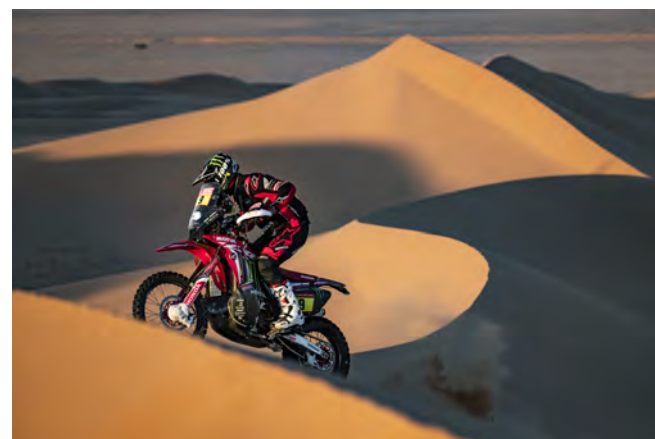
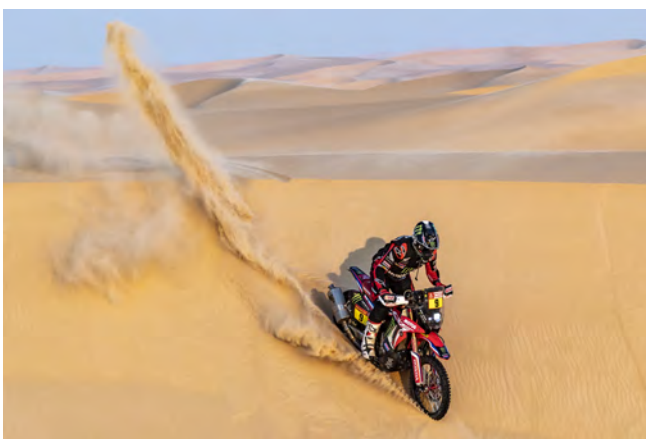
31年ぶりに二輪車部門で総合優勝。
「CRF450 RALLY」が世界一過酷と言
われるラリーを制す

「世界一過酷なモータースポーツ競技」と言われるダカールラリー。サウジアラビアで開催された2020年大会は、総走行距離7000km以上、走行ルート75%が砂漠地帯となり、参加者は13日間で全12ステージを走破しました。

ファクトリーチーム「Monster Energy Honda Team」のライダーは本大会でも上位に躍進し、「CRF450 RALLY」は全12ステージ中、6ステージで勝利。ステージ2勝を挙げたリッキー・ブラベックが、ステージ3から最終ステージまで総合トップの座を誰にも明け渡すことなく総合優勝を果たしました。

5度目のダカールラリー参戦にして初優勝となったリッキー・ブラベックは、米国人ライダーとしても初の総合優勝を飾る快挙。Hondaにとっては、1989年に優勝して以来、31年ぶりのダカールラリーでの総合優勝となりました。

Hondaは1981年のパリ・ダカールラリー第3回大会から参戦、1986年に「NXR750」で優勝するとその後1989年まで4連覇を果たしました。1990年から参戦を休止し、2013年南米で開催されていたダカールラリーに「CRF450 RALLY」で復帰。2015年と2018年に総合2位を獲得、復帰8年目での総合優勝となりました。



Honda's History in DAKAR RALLY

Year	Best result	Rider	Nationality	Bike
1986	Win	シリル・ヌブー	フランス	NXR750
1987	Win	シリル・ヌブー	フランス	NXR750
1988	Win	エディー・オリオリ	イタリア	NXR750
1989	Win	ジル・ラレイ	フランス	NXR750
Honda did not compete in the Dakar from 1990 to 2012				
2013	7th	エルダー・ロドリゲス	ポルトガル	CRF450 RALLY
2014	5th	エルダー・ロドリゲス	ポルトガル	CRF450 RALLY
2015	2nd	パウロ・ゴンサルヴェス	ポルトガル	CRF450 RALLY
2016	4th	ケビン・ベナバイズ	アルゼンチン	CRF450 RALLY
2017	5th	ホアン・バレダ	スペイン	CRF450 RALLY
2018	2nd	ケビン・ベナバイズ	アルゼンチン	CRF450 RALLY
2019	7th	ホセ・イグナシオ・コルネホ	チリ	CRF450 RALLY
2020	Win	リッキー・ブラベック	米国	CRF450 RALLY



Why Honda Races

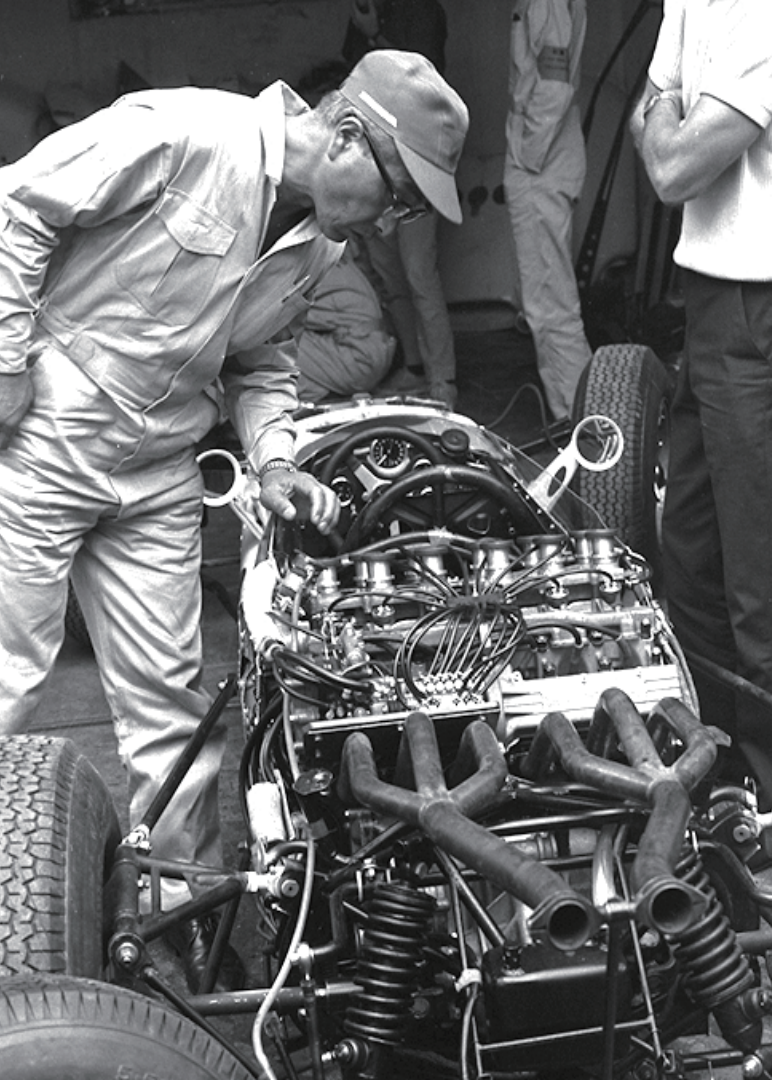
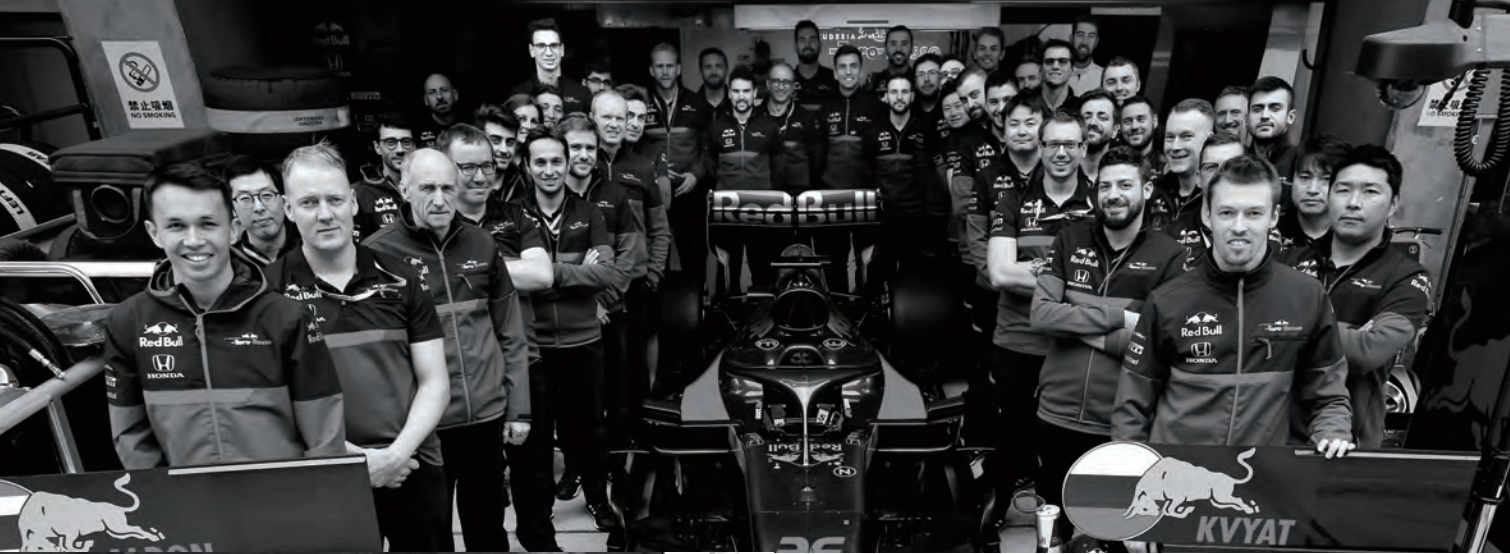
「私の幼き頃よりの夢は、自分で
製作した自動車で全世界の
自動車競争の覇者となることであつた」

—本田宗一郎

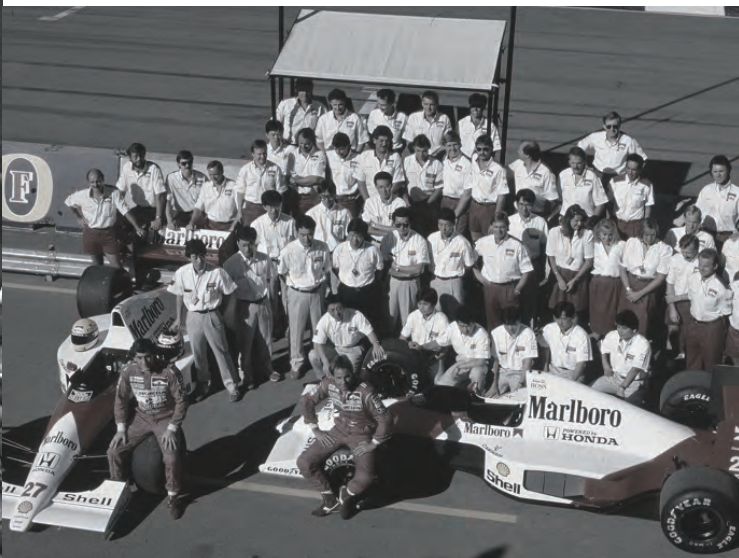
1954 年、Honda 創業者・本田宗一郎は、
「マン島 TT レース出場宣言」を発表。世
界の舞台で戦うという強い意志を発信し
ました。その想いは現代へと受け継がれ、
レースは Honda の DNA となっています。

Honda Racing





THE RACING GENE
IT'S IN OUR BLOOD



What's Coming in 2020?

二輪カテゴリーでは、4年連続での三冠達成を目指すMotoGPをはじめ、モトクロス、トライアルでも連覇を期して臨みます。さらには、スーパーバイク世界選手権でファクトリー体制が復活。

四輪カテゴリーは、復帰6年目にしてタイトル獲得を目指すF1のほか、「NSX GT3 Evo」や「CIVIC TCR」も世界の頂点を目指します。



Trial GP



Formula 1



MXGP



EWC



SBK

EVERY CHALLENGE
MADE US STRONGER



IGTC



WTCR



SUPER GT



MotoGP



Super Formula

Formula 1

Formula One World Championship

パワーユニットサプライヤーとして
2015年の復帰後、初の2チーム供給体制となった2019年は、「Aston Martin Red Bull Racing」がシーズン3勝、そして「Red Bull Toro Rosso Honda」(現 Scuderia AlphaTauri Honda)は2度の表彰台登壇と、着実な進化を示す年となりました。2020年も両チームとタッグを組み、より多くの勝利を目指します。



Aston Martin Red Bull Racing



#33 マックス・フェルスタッペン

国籍: オランダ

生年月日: 1997 年 9 月 30 日



#23 アレクサンダー・アルボン

国籍: タイ

生年月日: 1996 年 3 月 23 日

Scuderia AlphaTauri Honda



#10 ピエール・ガスリー

国籍: フランス

生年月日: 1996 年 2 月 7 日



#26 ダニール・クビアト

国籍: ロシア

生年月日: 1994 年 4 月 26 日



Max Verstappen マックス・フェルスタッペン

F1ドライバー、ヨス・フェルスタッペンの下に生まれ、幼いころからレースに親しみます。7歳で初のカートレースを経験すると、その才能を遺憾なく発揮し、ベルギー国内カテゴリーのチャンピオンに。そこから連戦連勝を重ね、欧州選手権、世界選手権でのタイトルを積み重ねると、16歳を迎える2014年からはシングルシーターへステップアップ。デビュー初年度にして、ヨーロッパF3選手権で総合3位、F3マカオGPで7位という成績を収めます。

翌2015年、「Scuderia Toro Rosso」からF1へフル参戦を開始。17歳165日で迎えた開幕戦は、史上最年少での出走記録となりました。ルーキーながら4位2回、入賞10度、総合12位でシーズンを終えると、翌2016年の第5戦スペインGPより「Red Bull Racing」へ移籍。移籍初戦で勝利を収め、18歳227日での初優勝という最年少記録を打ち立てました。

2018年も2勝を挙げ、Hondaパワーユニットでの参戦となった2019年には自己最多のシーズン3勝をマーク、ランキングも自己ベストの3位となりました。23歳を迎える今季は、史上最年少チャンピオンの記録更新を狙います。

Aston Martin Red Bull Racing

Alexander Albon アレクサンダー・アルボン

8歳でレーシングカートを始め、英国、欧州のカートシリーズで数々のタイトルを獲得。2012年からはシングルシーターのレースにステップアップし、2014年のフォーミュラ・ルノー2.0ユーロカップで総合3位、2016年のGP3シリーズ（現FIA F3選手権）で総合2位と頭角を現します。

2018年にはF1への登竜門と言われるFIA F2選手権に参戦。4勝を含む8度の表彰台登壇、ポールポジション3回と活躍。最終戦までタイトルを争い、総合3位でシーズンを終えます。

そして2019年、「Red Bull Toro Rosso Honda」からF1デビューを果たすと、第13戦ベルギーGPからは「Aston Martin Red Bull Racing」へ移籍。最高位4位、入賞13回とルーキーらしからぬ堂々とした成績を残しました。





Pierre Gasly ピエール・ガスリー

10歳でカートレースに参戦し、2011年にフランスF4選手権でシングルシーターへデビュー。総合3位でシーズンを終えると、翌年からはフォーミュラ・ルノー 2.0 へステップアップし、参戦2年目にチャンピオンを獲得します。

2014年にフォーミュラ・ルノー 3.5 へとステップアップして総合2位となり、翌年からはF1の登竜門であるGP2シリーズ(現FIA F2選手権)へフル参戦をしつつ、「Red Bull Racing」のリザーブドライバーを務めます。2016年にGP2シリーズでチャンピオンを獲得。2017年は日本へ渡り全日本スーパーフォーミュラ選手権へ参戦、2勝を含む3度の表彰台登壇を果たしました。同年の終盤戦には、「Scuderia Toro Rosso」からF1デビュー、3戦に出場。2018年からはF1にフル参戦し、バーレーンGPでの4位入賞など活躍。2019年は兄弟チームの「Aston Martin Red Bull Ra」へ移籍を果たしましたが、後半戦は再び「Red Bull Toro Rosso Honda」へ。21戦中14戦でポイントを獲得し、ブラジルGPでは2位に入り、自身初、チーム史上3度目の表彰台登壇を果たしました。

Scuderia AlphaTauri Honda

Daniil Kvyat ダニール・クビアト

ロシアで生まれ、8歳のころからカートレースに親しみます。ほどなくして真剣にレース参戦を目指すようになり、イタリア・ローマへ渡って欧州のカート選手権に参戦します。シングルシーターへのデビューは2010年。European and Pacific Formula BMW seriesやニュージーランドの選手権に参戦し、2011年からはフォーミュラ・ルノー 2.0 へ。

2012年にはフォーミュラ・ルノー 2.0 ユーロカップで総合2位など活躍を見せると、2013年からはGP3シリーズ(現FIA F3選手権)へステップアップし、チャンピオンを獲得。2014年には「Scuderia Toro Rosso」のF1シートを手に入れます。翌2015年には「Red Bull Racing」へ移籍し、初表彰台となる2位を獲得するなど活躍。翌2016年のシーズン途中から「Scuderia Toro Rosso」へ復帰すると、2017年の終盤までレギュラードライバーを務めます。

2018年にフェラーリの開発ドライバーを務めた後、2019年に再び「Red Bull Toro Rosso Honda」からF1へ復帰。コンスタントに入賞してポイントを獲得し、雨天の影響で波乱のレースとなったドイツGPでは難しい戦略を見事に遂行して3位を獲得。チームにとって11年ぶり2度目の表彰台をもたらしました。



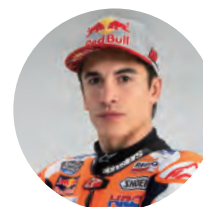
MotoGP

MotoGP World Championship

1954年の「マン島 TT レース出場宣言」。Honda のレース活動はここから始まりました。1959年にマン島 TT レースへの初出場を果たすと、1961 年からロードレース世界選手権へのフル参戦を開始。この年の開幕戦で初勝利を挙げ、以降 60 年近くに渡り積み重ねた勝利はグランプリ史上最多の 795 勝となりました。2020 年は MotoGP クラスでの 4 年連続の三冠達成と、大きなマイルストーンとなる通算 800 勝を目指します。



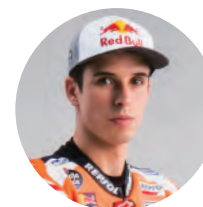
Repsol Honda Team



#93 マルク・マルケス

国籍：スペイン

生年月日：1993 年 2 月 17 日

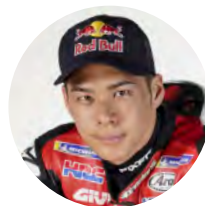


#73 アレックス・マルケス

国籍：スペイン

生年月日：1996 年 4 月 23 日

LCR Honda IDEMITSU

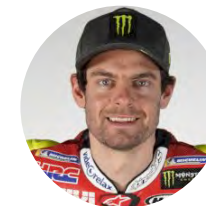


#30 中上 貴晶

国籍：日本

生年月日：1992 年 2 月 9 日

LCR Honda CASTROL



#35 カル・クラッチロー

国籍：英国

生年月日：1985 年 10 月 29 日



Marc Márquez マルク・マルケス

2008 年、わずか15歳でロードレース世界選手権の125ccクラスヘデビュー。参戦3年目の2010年にチャンピオンを獲得し、翌2011年にMoto2クラスヘステップアップ。第4戦フランスGPで初優勝を飾り、中量級クラスにおける最年少優勝記録を更新。その年はケガのため最終戦を欠場しましたが、シリーズ7勝を挙げて総合2位となりました。ケガから復帰した翌2012年もMoto2を走り、全17戦中9勝を挙げてシリーズチャンピオンに輝きました。

2013年より、「Repsol Honda Team」からMotoGPクラスに参戦。開幕戦カタールGPで早くも3位表彰台に立つと、第2戦アメリカズGPで初優勝を飾り、最高峰クラス最年少優勝記録を更新(20歳63日)しました。その後も勢いはとどまらず、ルーキーながら全18戦中6勝を挙げて、史上最年少チャンピオンを獲得(20歳266日)。

以降、2015年以外すべてチャンピオンとなり、最高峰クラスでのタイトル獲得は6回。全クラスでの通算勝利数は82勝で歴代4位、最高峰クラス通算56勝は歴代3位であり、Hondaマシンを駆るライダーとして歴代最多となっています。2020年は、2016年から続く連覇記録を5年連続に伸ばすべく、新たなチームメートとなった弟のアレックスとともに「RC213V」を駆ります。

Alex Márquez アレックス・マルケス

2012年にCEVレプソルインターナショナル選手権のMoto3クラスでタイトルを獲得し、翌2013年から世界選手権のMoto3クラスヘデビュー。翌2014年に「NSF250RW」で3勝を挙げてチャンピオンを獲得。MotoGPクラスを制覇した兄のマルクとともに、史上初の兄弟チャンピオンが誕生しました。

2015年からはMoto2クラスヘステップアップし、総合14位、翌2016年は総合13位となりましたが、3年目の2017年には初優勝を含む3勝を挙げて総合4位に躍進。2018年もコンスタントに表彰台を獲得し、引き続き総合4位に入ります。

2019年は、シーズン中盤に連勝を重ねてMoto2クラスでのポイントリーダーに立つと、最後までリードを譲らずにチャンピオンを獲得。MotoGPクラスでチャンピオンを獲得した兄マルクとともに、史上2度目の兄弟チャンピオンとなります。シーズン最終戦の翌日、「Repsol Honda Team」への加入が電撃発表され、2020年シーズンはチームメートの兄とMotoGPクラスに挑みます。





Takaaki Nakagami 中上貴晶

2006 年、14 歳で全日本ロードレース選手権 GP125 クラスにデビュー。全戦全勝でタイトルを獲得し、同選手権の史上最年少優勝、最年少チャンピオンの記録を打ち立てます。翌 2007 年にはスペインへ渡り、CEV の 125GP クラスへ参戦。さらにはワイルドカードで MotoGP 最終戦のバレンシア GP で 125cc クラスに出場します。

2008 ～ 2009 年に MotoGP 125cc クラスにフル参戦したのち、2010 年に全日本選手権へ復帰。2011 年に J-GP2 クラスでタイトルを獲得すると、再び世界へ挑戦すべく、2012 年から MotoGP Moto2 クラスへ参戦します。その後は 6 年間にわたり Moto2 クラスで戦い、2016 年のオランダ GP でキャリア初優勝。2017 年は、第 12 戦イギリス GP でのキャリア 2 勝目を含め、4 度の表彰台を獲得して総合 7 位となりました。

2018 年から、「LCR Honda IDEMITSU」に加入し、MotoGP クラスへステップアップ。最終戦のバレンシア GP での 6 位入賞を筆頭に 11 戦でポイントを獲得します。2019 年も引き続き MotoGP クラスへ参戦。開幕から 4 戦連続トップ 10 フィニッシュを果たすなど安定した走りを見せますが、肩の負傷を治療するため終盤 3 戦を欠場。2020 年は最高峰クラス 3 年目を迎えます。

Cal Crutchlow カル・クラッチロー

イギリス国内選手権で頭角を現し、2009 年にスーパースポーツ世界選手権へ参戦。デビューイヤーにしてチャンピオンを獲得します。翌年からはスーパーバイク世界選手権へと活動の場を移すと、3 勝を挙げてランキング 5 位に入ります。

2011 年に MotoGP クラスへ参戦を開始し、初年度はルーキー・オブ・ザ・イヤー、さらに 2012 年に総合 7 位、2013 年に総合 5 位と安定した成績を残し、トップライダーの仲間入りを果たします。2015 年からは「LCR Honda」に加入し、「RC213V」を駆ると、2016 年のチェコ GP で初優勝。最高峰クラスで 35 年ぶりのイギリス人ライダーによる勝利となりました。さらに同年のオーストラリア GP でキャリア 2 勝目を飾りました。

その後もコンスタントに表彰台登壇を果たし、2018 年のアルゼンチン GP ではキャリア 3 勝目。さらに日本 GP では優勝したマルク・マルケスに続く 2 位に入り、Honda のホームでの 1-2 フィニッシュ達成に貢献しました。これまでポールポジション獲得 4 回、表彰台登壇 19 回をマークしており、名実ともに世界を代表するライダーの一人として活躍しています。



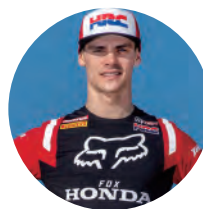
MXGP

Motocross World Championship

土や砂地に作られたコースをオフロードバイクで戦う「モトクロス」。世界選手権の最高峰クラスは、450cc マシンで競われるMXGPクラスです。ファクトリーチーム「Team HRC」は、2016 年、2019 年王者のティム・ガイザーと、MX2 クラスで光る走りを見せて昇格したミッチェル・エバンスの 2 名体制で参戦。ファクトリーマシン「CRF450RW」でタイトル 2 連覇を狙います。



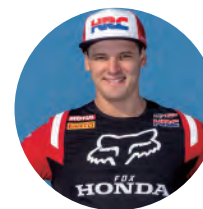
Team HRC



#243 ティム・ガイザー

国籍：スロベニア

生年月日：1996 年 9 月 8 日



#43 ミッチェル・エバンス

国籍：オーストラリア

生年月日：1998 年 11 月 10 日



CRF450RW

TrialGP

Trial World Championship

障害物をバイクで乗り越えながら進み、
いかに足を付かずにゴールへたどり着けるかという技術を競う「トライアル」。ファクトリーチーム「Repsol Honda Team」が、世界選手権 13 連覇中の絶対王者、トニー・ボウと、2004 年チャンピオンの藤波貴久の 2 名で参戦。ファクトリーマシン「Cota 4RT」を駆る 2 人のチャンピオンがさらなる連覇を目指します。



Repsol Honda Team



#1 トニー・ボウ

国籍：スペイン

生年月日：1986 年 10 月 17 日



#3 藤波 貴久

国籍：日本

生年月日：1980 年 1 月 13 日



COTA4RT

SBK

Superbike World Championship

市販車ベースのレーシングマシンで争われる世界最高峰の戦いがスーパーバイク世界選手権です。2020 年、Honda は、新 型 マ シ ン「CBR1000RR-RW FIREBLADE SP」を投入し、ファクトリーチーム「Team HRC」として参戦。2019 年に 16 勝を挙げて総合 2 位となったアルバロ・バウティスタと、同選手権 15 シーズン目のレオン・ハスラムのコンビでタイトル獲得を目指します。



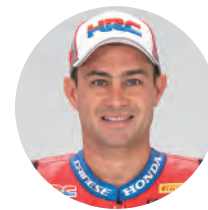
Team HRC



#19 アルバロ・バウティスタ

国籍：スペイン

生年月日：1984 年 11 月 21 日



#91 レオン・ハスラム

国籍：英国

生年月日：1983 年 5 月 31 日



CBR1000RR-R
FIREBLADE SP

EWCC

Endurance World Championship

複数のライダーが交代しながら、8 時間または 24 時間のレースを競うのが世界耐久選手権です。100 年近い歴史を持つ「ボルドール 24 時間」など、伝統のレースが複数あるのも特徴で、長時間のレースの間にされるタイヤ効果や燃料補給といったピットワーク、そしてトラブル対応などのチームワークも見どころとなっています。2017-18 シーズンには、F.C.C. TSR Honda が「CBR1000RR SP2」を駆ってチャンピオンを獲得。翌年は総合 2 位に甘んじましたが、今季は新型マシン「CBR1000RR-R FIREBLADE SP」を投入、2 年ぶりのタイトル獲得を目指します。



#5 F.C.C. TSR Honda France



	ジョシュ・フック	フレディ・フォレイ	マイク・ディ・メリオ	CBR1000RR-R FIREBLADE SP
国籍	オーストラリア	フランス	フランス	
生年月日	1993 年 1 月 9 日	1984 年 8 月 2 日	1988 年 1 月 17 日	

AMA-SX

A M A S u p e r c r o s s

野球のメジャーリーグが開催されるスタジアムなどに人工的なコースを設置し、ダイナミックなジャンプやテクニックを要するコーナーなどでのエキサイティングなレースが人気です。オフロード人気の高い米国でのレースだけに、その競技レベルは世界選手権に勝るとも劣らないと言われています。これまで最高峰クラスで15回のタイトルを獲得。2020年も「Team Honda HRC」が参戦し、チャンピオン獲得を目指します。



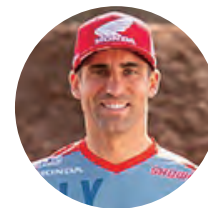
Team Honda HRC



#94 ケン・ロクスン

国籍：ドイツ

生年月日：1984年4月29日



#10 ジャスティン・ブレイトン

国籍：米国

生年月日：1984年3月14日



CRF450R

WTCR

World Touring Car Cup

WTCR は、「TCR 規則」という統一レギュレーションに沿って、市販車をベースにレース用にチューンアップしたマシンで、ドライバーおよびチームタイトルを競う世界選手権です。2020 年シーズンは 10 カ国で 10 レースが開催され、多くのカスタマーチームがエントリーしています。Honda は、このシリーズへ 4 名のファクトリードライバーを送り込みます。TCR マシンによるレースは、日本をはじめとした世界各国で国内選手権が開催されており、活況を呈しています。Honda は、2019 年の「TCR モデル・オブ・ザ・イヤー」を受賞した「CIVIC TCR」を、世界中のチーム・エントラントへ供給しています。





ALL-INKL.COM Münnich Motorsport
&
ALL-INKL.DE Münnich Motorsport



エステバン・グエリエリ

国籍：アルゼンチン

生年月日：1985 年 1 月 19 日



ティアゴ・モンテイロ

国籍：ポルトガル

生年月日：1976 年 7 月 24 日



ネストール・ジロラミ

国籍：アルゼンチン

生年月日：1989 年 5 月 22 日



アッティラ・タッシ

国籍：ハンガリー

生年月日：1999 年 6 月 14 日

IGTC

Intercontinental GT Challenge

FIA の定める「グループ GT3」という規定に適合したマシンで争われる世界選手権です。ホモロゲーションを受けた車種のみが GT3 車両として参戦可能で、「NSX GT3 Evo」をはじめ、世界各国のメーカーが自社を代表するスーパースポーツカーを送り出しています。IGTC(インターコンチネンタル・スポーツカーチャレンジ) は、スパ 24 時間レース (ベルギー) や、鈴鹿 10 時間 (日本) といった人気の高いレースが並んでいます。



#30 Team Honda Racing



レンジャー・ファン・デル・ザンデ

国籍：オランダ

生年月日：1986 年 2 月 16 日



デーン・キャメロン

国籍：米国

生年月日：1988 年 10 月 18 日



マリオ・ファーンバッハー

国籍：ドイツ

生年月日：1992 年 5 月 14 日



ベルトラン・バゲット

国籍：ベルギー

生年月日：1986 年 2 月 23 日

SUPER GT

DTM(ドイツツーリングカー選手権) と統一規則である「クラス1規定」に沿って開発された、マシンによって争われるセミ耐久レースです。

シリーズ中の成績に応じてハンディウエイトの積載や燃料の流量制限など、各車両の性能を拮抗させる演出もなされており、毎回、白熱したレース展開が見られます。

「NSX-GT」を投入し、5チーム10名のドライバーがタイトル獲得を目指します。

#8 ARTA



野尻 智紀



福住 仁嶺

#16 TEAM MUGEN



武藤 英紀



笹原 右京

#17 KEIHIN REAL RACING



塚越 広大



ベルトラン・バゲット

#64 Modulo Nakajima Racing



伊沢 拓也



大津 弘樹

#100 TEAM KUNIMITSU



山本 尚貴



牧野 任祐

Super Formula

Japanese SUPER FORMULA Championship

日本国内フォーミュラカーレースの最高峰として、全国各地のサーキットで戦いが繰り広げられます。

「Scuderia AlphaTauri Honda」のピエール・ガスリーなど、これまでに多くの F1 ドライバーを輩出したことから、世界への登竜門的存在としても注目を集めており、世界中から有望な若手ドライバーが参戦しています。

DOCOMO TEAM DANDELION RACING



#5 山本 尚貴



#6 福住 仁嶺

TEAM MUGEN



#15 ユーリ・ビップス



#16 野尻 智紀

TCS NAKAJIMA RACING



#64 牧野 任祐



#65 大湯 都史樹

Threebond Drago CORSE



#12 タチアナ・カルデロン

B-Max Racing with Motopark

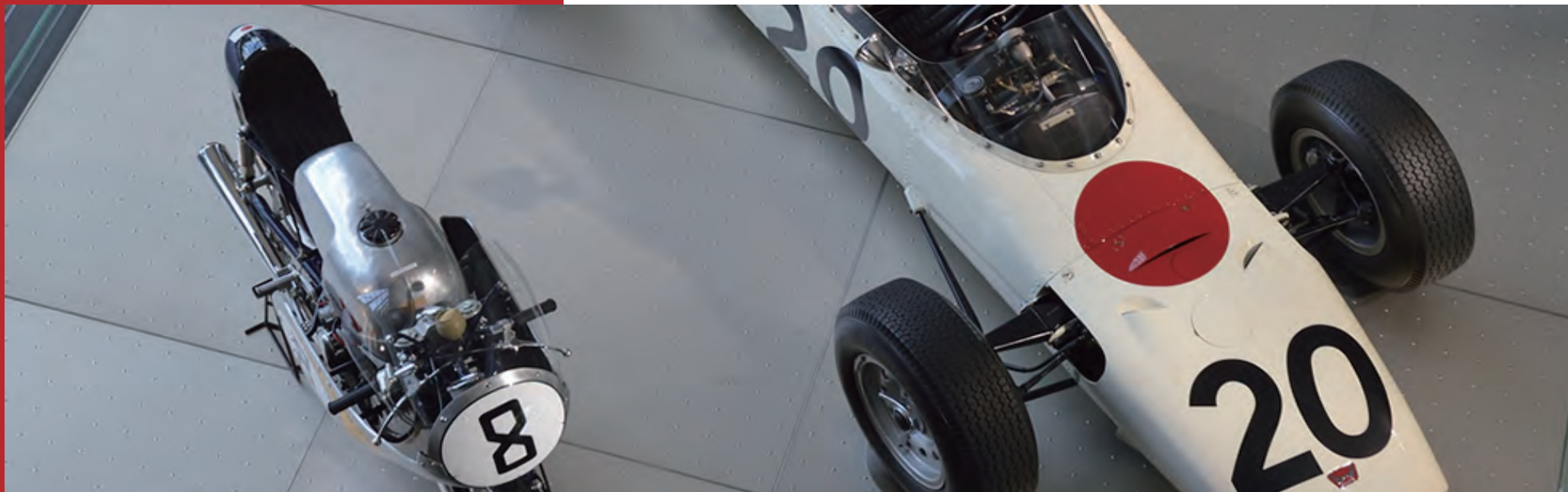


#50 ピエトロ・フィッティパルディ



#51 シャルル・ミレッシ

Honda Collection Hall



tel. 0285-64-0001

栃木県芳賀郡茂木町大字桧山 120-1

<https://www.twinring.jp/collection-hall/>



「製品は嘘をつかない。ほんとうにいいものなら、必ず成功するんだ」「Honda のみんなが何を考えてつくってきたか。みんなのつくったものを皆さんにお見せすればいい。こんな正直な Honda はどこにもないぞ」創業者 本田宗一郎のこの言葉が、Honda Collection Hall のそもそもの発端でした。

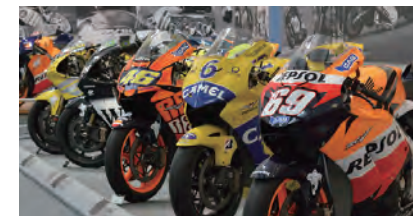
ここに集まる Honda 製品は単なる Honda の歴史だけではありません。時を超えて今もなお受け継がれる、創業期の人々の夢や情熱。Honda 製品を使ってくださった方、愛してくださった方、お一人おひとりの思い出もあふれています。当時の写真やエピソードなど数々の記録とともに、「ほんものが語りかける展示」をどうぞごゆっくりとご覧ください。

世界の頂点を目指そう



3階は、Honda モータースポーツ活動の歩みをたどる展示フロア。世界の頂点を目指し、様々なレースに挑戦してきた、二輪・四輪のレーシングマシンがずらりと並びます。2階は、Honda 市販製品の歩みをご紹介しますフロア。市販車両や製品の特徴を、当時の時代背景などを織り交ぜながら、ご案内いたします。

1階では、Honda の夢と挑戦の軌跡をご紹介します。創業者・本田宗一郎と藤澤武夫が時代の変化とともに変わり行く夢の実現のために歩んだ軌跡を、その発想や言葉とともにご覧いただけます。



アクセス

電車・バス

JR 宇都宮駅西口からバスで約 100 分

真岡鉄道茂木駅からバスで約 20 分



クルマ

東北道宇都宮 IC または鹿沼 IC より約 90 分

常磐道那珂 IC または水戸 IC より約 40 分

常磐道水戸北スマート IC(ETC 利用者のみ) から約 30 分





HONDA
The Power of Dreams